かやぶき民家の再生による地域活性化と桃源郷の趣を後世に伝える里山の取り組み。

世界遺産「白神山地」の南山麓にある手這坂は、江戸時代の紀行家・菅江真澄が「桃源郷」と称えた集落。そこに残されたかやぶき民家を再生し、桃源郷を再現するための取り組みが10年以上にわたって続いている。秋田県内外からも注目される景勝地となった手這坂の今後が楽しみである。

放置されたかやぶき民家を再生させる。

江戸時代後期、北東北を中心に長い旅を重ね、多くの文献や絵図を残した菅江真澄。その真澄が、およそ200年前に訪れた集落のひとつが秋田県山本郡八峰町の手這坂である。彼の日記紀行『おがらのたき』には、「ここに誰世々咲く桃にかくろひておくゆかしげに栖めるひと村」という歌が残され、桃の花に囲まれたのどかな村の様子から、中国の武陵桃源の故事になぞらえ、ここを“桃源郷”と絶賛した。

その手這坂では、里山の暮らしが続けられていたのだが、残念なことに2000年に無人集落となり、4軒のかやぶき民家が残された。かやぶき屋根は家の中で火を使い、日常的に煙を出すことでかやの腐食を防いでいるが、無人になれば老朽化は急速に進む。また、耕作が放棄されたことで、周囲の景観も荒れるにまかせる状態だった。このままでは真澄が称えた桃源郷も絶えてしまうと、地元の有志を中心にボランティアが集まり、2001年から活動を開始したのが手這坂活用研究会である。

「無人集落となった手這坂のかやぶき民家4戸を再生・維持すること、その周囲の遊休農地を整備して米、菜の花、そば、麦などを栽培したり、収穫したもので加工体験をすること、また春の桃の花見、夏のホタル観察会、秋の桃源郷まつり、冬の雪灯籠を楽しむ冬まつりを実施して地域交流を図ることが、研究会の主な活動です」

そう話すのは、事務局長の嶋津宣美さん。

当初は有志、地主、かやぶき職人など11名でスタートした研究会だが、現在の会員数は約120名。活動には一般のボランティアや秋田県内外の大学生なども加わり、その活動がマスコミなどでも報道されたため、いまでは秋田県のグリーン・ツーリズム（農村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動）の象徴となっている。

「各種団体からの助成金などを含め、基本的に活動資金はすべて会が捻出・確保してきました。当初は行政にも提言しましたが、個人の土地や建物に税金を投入することはできないということで、これまで一度も支援を受けていません。そうした状況の中でかやぶき屋根や建物の修繕を行ってきましたが、老朽化が激しく、早急に屋根修理などを行わないと集落自体が廃村になる危険性がありました」と、嶋津さん。その危機を救ったのが、AJOSCからの助成だった。

江戸時代にタイムスリップしたような当時の風情を残す手這坂集落

屋根を修理する様子

地元の大学生も駆けつけ修理作業を手伝う

２月に行われた「雪まつり」には多数の観光客が訪れた

町のイメージアップにも貢献する桃源郷の整備事業。

「今回の助成金を使い、2軒の屋根をさしがやという方法で修理することができました。かやの在庫が少なかったので一部、岩手県内からも購入することができ、ふき替え職人の補助員も確保できました。さらに、作業には地元の国際教養大学から学生ボランティアも駆けつけてくれたおかげで、作業が短期間で済みました。草刈り機による雑草の駆除や菜の花の種まきもできましたし、訪れる見物客のためのトイレを整備できたことも大きかったです」

手這坂活用研究会では、特別な場合を除いて毎月第3日曜日を作業日と定め、かやの手入れや刈り取り、かやぶき民家とその周辺の環境整備などを中心に行っている。桃源郷にふさわしい景観にするために続けてきた桃の植樹も、すでに300本となった。その参加者には地域通貨的な「桃源」と呼ばれるポイントを発行し（1000桃源／500桃源の2種類）、手這坂で行われるイベントなどに使えるような工夫もしている。

周囲には世界遺産の白神山地をはじめ、水沢山ブナの森公園、ブナの植樹が進められている町有林、さらには首都圏から釣り客が訪れる水沢川などがある。手這坂を桃源郷として整備することは、町のイメージアップに役立つことはもちろん、さまざまな観光資源と有機的に結びつけることにより、地域活性化や地域と都市との交流拠点としての活用にも道を開くものである。ゆくゆくは農業体験や里山の生活体験ができるかやぶき屋根の農家民宿などへ発展させることで、かやぶき民家再生の恒久的な資金を確保できるシステムを確立していきたいと、嶋津さんは夢を語った。「200年前にここを桃源郷と絶賛した真澄。その手這坂を私たちの世代が廃墟にしたとなれば、真澄やご先祖様から笑われ、非難されることになる」と、嶋津さんは言葉を結んだ。

担当者より

これまでで一番大きな助成をいただきました。

手這坂活用研究会
事務局長
嶋津宣美さん

今回の助成は、かやぶき屋根の状況の改善に大変役立ちました。計画に合わせ、自由に使えるAJOSCの助成は、私たちのような任意団体には大助かりです。国際教養大学の学生との世代間交流ができたことも、会にとって大きな財産となりました。